

日刊 動労千葉

79.8.26
No.全版27

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電(二五八)九・(公衆電話)22七二〇七

暴力事件をデッチ上げ 『警察に訴えてやる』と口にする島田！



全国の動労組合員のみなさん。 動労「本部」反動集団は、第三五回全国大会に「千葉から七名の組合員が参加した」と大書きに描き出し、「千葉地本再建」が間近に迫ったかのごとく幻想をふりまき、連日、革マル反動分子を動員し、動労千葉破壊裏切り密通分子「防衛」にヤッキになっています。しかし、この「防衛」動員の努力も空しく、現実には、七名の裏切り密通分子は、連日の動労千葉組合員の怒りの糾弾行動に消耗し沈黙してしまい、島田誠にいたっては、革マル密通分子の本性をむき出しにして暴力事件をデッチ上げて国鉄当局に泣訴し、「警察に訴えてやる」等と動労千葉、他労組組合員に公言するという仕末なのです。これが「本部」反動集団が「良心的組合員」と賞賛してやまぬ組織破壊裏切り分子の真の姿なのです。結局のところ、動労「本部」反動集団は、「千葉地本再建策」の破綻を隠蔽するために、展望もな

くしなければならぬ七名の裏切り・密通分子を狩り出し「全国大会乗り切り要員」にまつりあげ、これをもって広範に湧きあがる動労内良心的組合員の正当な意見を封じこめんとしたものであり、危機にたつ「本部」反動集団の実態を如実にあらわしたものです。

全国大会には絶対に参加して
ない、とウソの強弁をする島田

島田誠、この男は自称「社青同協会派」であるといっています。しかしこの数年間一度たりとも組合動員にも参加せず、職場集会にも顔を出すこともなかった男なのです。昨年一〇日、国労の役員選挙に不当介入し国労から抗議を受け、津田沼支部が島田にかわり謝罪声明を掲出し解決をしたのです。この問題の解決後、島田は、動労に迷惑をかけたとして「動労を脱退して国労に加入」と言い出し、昨年一月から組合費の納入を拒否していたのです。こうして二度に亘って動労千葉に敵対してきた島田も、4・17津田沼襲撃事件に対する組合員の怒りに圧倒され、津田沼支部に自己批判書を提出し、4・18支部結成大会に自ら進んで出席し動労千葉の一員として闘うことをちかっていたのです。しかし、動労千葉の前進、「千葉再建」の破綻の現実を直面し、ついに協会派もぐりこみ革マル分子の本性をあらわにして動労千葉破壊にうってでてきたのです。

今日、島田は組合員の追及をかわすため、「動労に残って動労を改革する」「俺は全国大会には参加していない」等とウソと詭弁をもって自己の裏切りを正当化しようと必死になつています。しかし、組合員の怒りの前について島田は、「これ以上やったら警察に訴えてやる」と労働者を権力に売り渡す事を公然といいはなっているのです。

そればかりか、「ナグルケル」の暴行を受けたとデッチ上げて「防衛動員」にきた革マル分子の中に逃げこむという卑劣漢ぶりを発揮しているのです。これが「本部」反動集団がいう千葉地本良心的組合員の実態なのです。

裏切り反動分子を一掃し、
動労大改革を前進させよう

われわれは、内部から動労千葉破壊の尖兵として革マル反動集団と結託し、あまつさえ国家権力に労働者を売り渡すことを平然と吐く裏切り反動分子を絶対に許すことはできません。このような反動分子を抱えこみ、これを「良心的組合員」等とまつりあげ、動労千葉破壊を策動する「本部」革マル反動集団こそ、一刻も早く動労から追放・一掃しなければなりません。

全国の動労組合員の皆さん。
第三五回全国大会で林委員長は「発言の保証」を強調し、「議論に意見があったとしても、多数が少数を追及するといったことは本大会以降やめることにしてほしい」と訴えたそうです。つまり、今日まで暴力による意見の封殺が行われていたことを認めているのです。では、本大会以降暴力支配は正されるのか、それは否です。裏切り分子の山田(銚子)ですら「政研・革マルの津山大会の本質は変らない」と言っているのです。政研・革マル片肺欠陥執行部では、増々動労が変質していくことは目に見えています。

本来の動労運動を復権させるため、第三五回全国大会の良心的代議員・組合員の決起に応え、動労大改革をさらにおしすすめようではありませんか。